(三日夕刊)

磐城新聞

休刊日 大祭第一第三日曜日
定價 一部 二錢 一ケ月 五十錢 郵税 拾錢
廣告料 (普通欄一行五十錢 場所指定二十錢増)
發行兼編輯印刷人 遠沼龍輔
福島縣平町田町拾六
發行所 磐城新聞社 電話五六四番

義務教育の延長

白銀町 △△生

子弟を教育するに當つて注意せなければならぬことは決して一に止まらぬが、中にも人は

◇働くべき◇

ものだ、力の限り働かねばならぬものだといふことの教育は、最も大切な事である殊に何でも働かねばならぬものだと云ふことに心を向はせねばならぬ人と云ふものは早くから働く習慣をつけただけよいものであつて、たとへ高等教育を受けたにせよ、小さい時から働くことの訓練をへたものでなくてはなか〳〵働けるものでなく從つて

◇一向に役◇

立たぬそれから上級學校へ進むものは別として、小學校だけで家庭に止まるものとか、或は何か實業を見習もに奉公に出る者とか、または技術などの習得方面へ出るものとか、さうした子弟だちは言ふ迄もなく働くのであるから結構な事のやうなものゝ、しかし今日の世の中に處してゆくには、技術や人格と同樣に、知識も亦大いに必要であるから何とか働く餘暇をもつて勉強する事にさせてほしい

◇働きつゝ◇

勉強すると云ふ事は、一面大變によろしいことであつて、決してその子弟達に甚閑堂々と學校へゆけないからつまらぬなどゝ思はせてはならぬ、長い間學校へ出したのに一向役に立たぬと云ふ事をよく聞くが、これは或程度迄ほんとのことである、働きつゝ勉強させる生活と教育とを

◇一致させ◇

る、さういふことは大變に必要なことで東京市では來學期から商工の時間を多くし一週五時間にもします、たゞ生活に即した教育を施さうといふのに外ならぬ、

もしこゝに小學校義務教育を二年延長することが出來その後は働きながら勉強させる制度にしたらまことに理想的である、前に働かせることゝいつたが、しかしこれには大いに

◇手加減を◇

して貰ひたいもので、過度の勞働を負擔させて、身も心も疲れはてさせてしまふといふやうなことのないやうに願ひたい、此の勞働が彼等に適宜であるや否やは常識でも大抵はわかることで、働くことを苦痛ばかりに感じることのないやう、充分の考慮を拂つてもらひたい、各地には夜間の補習學校を始め各種の學校があるが、非常に缺席者の多いのは要するに

◇彼等が疲◇

れすぎるのである、子弟を勞働させる者は温かい心をもつて、彼等の將來もよく考へてやつてほしい能率の事ばかりを考へずに勉強に對して大いに理解してやつて貰ひたい。

明日の吉凶

五 舊月 暦五日 ／ 六 新月 暦四日

▲一白 出來さうに思はれて小故に妨げられ易き日▲二黑 退く時にはあらざれど進むには一分用心せよ▲三碧 初一念の通達する吉日氣緩みせぬ樣注意▲四綠 期待の裏切られ易き日進退共に注意▲五黃 内に屈託するより外へ活動するが有利の日▲六白 氣緩みより大事を敗ることあり世話事も注意▲七赤 外に出れば口舌事多かるべし內に守が安全▲八白 吉運の樣にして不安の念の去らざる日注意▲九紫 橫車を押さぬようにすれば人自ら我に集まる

講談 血で血を洗ふ (52)

高橋掬太郎創作 布施午八郎挿畫

秀吉の退却

「それは如何なる軍略に依つて敵をみなころしになさるのでござりまするか？」

吉行は考へても解らないので成昌に問ふた。

「その軍略が造作もないことぢや」と吉行の面を見て笑ひながら「大風の吹くのを待つのぢや」

「そして如何がに——？」

「さあ。そして風上から火を放つてやるのぢや」

「え——」

見事に吉行は一杯喰はされたのであつた。

「草は枯れて居るしよく燃ゆることであらうから秀吉の大軍も忽ち燒け死んでしまふであらう。味方を一名も損せずに敵をみな殺にする何んと妙計であらう。はゝゝゝゝ」

成昌は聲を立てゝ笑つた

「これはとんだお戯れ——」

と吉行は苦笑した。

「いや忠兵工これを戯れと思ふてはならぬ、如何にも餘が只今申したのは戯れではあるがこれが軍略の妙であることぢや」

成昌はきつとして云つた

「はゝあ——？」

「只今餘の言葉が其方を最後まで釣つたであらう。それは余の云ふことが妙計であつて釣つたのでなく其方が余の云ふことであるから定めしどのやうな奇計であらうも知れぬと買ひ冠つたからぢやつまり敵に買ひ冠らせると云ふことが軍略上の大切な妙ぢや一重のものを見せながら二重にも三重にも思はせるのぢや。これが余の云ふことであるから其方も釣られたであらうが他の者が申してのでは其方も始めから向ふが見ねて釣られることがなかつたであらう」

「成程」

無暗と矛を交へて戰ふばかりが能でない。却つて迂潤に騷ぎ立てゝは腹の底が見られやう。斯樣な場合は默つて敵を見てゐるに限るのぢや。敵も智將な智將ほど智將でなければ智將でないほど手を出せるものでないのぢや」

「はゝあ能く相解りました」

「しかし油斷はならぬ。斯樣な時は少しでも油斷を見せたらそれで我が軍の負けぢや。彼我等の力を以て爭ふ時か又は彼より勝さる自信があれば彼に誘ひの隙を見せるもよいが我が軍は彼に勝さるものでないから戰ふて勝利が覺束ないのぢや默つてゐるほど勝ぢや、決して敵が隙を見せても夫れに乘じてはいかぬ。よく注意してたるがよいぞ」

「はッ承知仕りました」

吉行は主君の智謀にただ敬服するばかりであつた

「どうぢや今日は天氣もよいやうぢや少し山を歩き廻つてまゐらぬか？」

成昌は誘つた

「はッ——お供を仕ります る」主從は立ち上つた

「その時であつた。あわただしく駈け込んで來た軍兵一人

「申上げます」

「何んぢや？」

只今秀吉の軍勢が退却の樣子にござゐまする」

「ナニ、秀吉の軍勢か退却な。ハテ——？」

成昌は訝かしげに小首をかたむけたが陣幕の外へ出て小高い處から敵陣を眺望した。

成程軍兵の報告の通りに秀吉の軍勢は徐々と退却して行くところであつた。しかし全部でなく半ばの軍勢は矢張り動かずに陣を構へてゐた。

「むゝこれが誘ひの手ぢや

と成昌は忠兵工吉行を顧みて云つた。そして

「飽迄もそ知らぬ風に致してゐれ。旗指物一本動かしても相成らぬぞ」と全軍に命じた

三百年の古い歴史と他の模擬(まね)の出來ない獨特の芳香(かほり)と色澤(つや)を有つ

ヒゲタ醤油

醸造元 銚子醤油株式會社

平町田町 特約店 廣瀨支店 電話五四番

鐵筋コンクリート 鐵骨組立 和洋建築 文化式建築 設計監督

土木、建築、請負業

合資會社 丸三森川組

社長 大森鎭平

東京日本橋區茅場町二〇 電話茅場町66 四五二番

夜間診療

胃腸 内科 十二指腸虫病 專門 内科部

梅毒 淋病 婦人病 包莖 肛門病 專門 外科部

平町南町 松村病院 電話七〇一

外科 X光線科 赤心堂病院

外科、耳鼻咽喉科 内科、泌尿器科

平町字田町 電話四七五

不思議な滋強靈液 養命酒

肺結核、肺炎カタル、ロクマク、性的不能、神經衰弱、不眠性、貧血症、婦人病等の特異靈劑なり、其偉效に實驗者は驚く賣行きの增大するを與て其眞價を立證せらる、惱み苦しむる人々の一大福音なり

此際是非御試用を切に勸む

定價 一、五〇 二、〇〇

代理店 山野邊藥局 平町五丁目角

平町紺屋町 吉田眼科醫院

平町田町 高久病院 電話五一三番

醫學士 高久忠 新潟醫學士 赤羽清 藥劑士 佐竹菊雄

内科小兒科、外科花柳病科、耳鼻咽喉科、レントゲン科

蜂ブドー酒

健康禮讃

人生の最大な歡喜は 一家揃つて健康なることであります 美はしき皮膚の精彩と 魅力ある健康と美とを創造する蜂ブドー酒の食前常用は 人間生活を ヨリ光明へ ヨリ幸福へと導く唯一の捷徑であります……

「蜂印香竄葡萄酒」といふ名稱を 皆様のお奨めにより 且つは時勢の推移に鑑み 今後「蜂ブドー酒」と改めます どうぞ 引續き御愛飲を願ひます

株式會社 近藤利兵衛商店 東京 大阪

ホシ胃腸藥

ちのくすり

御需めの方は 平白銀町 吉田新聞店へ 電話四十八

平館隣り 御料理 鰻蒲燒 仕出し 魚榮 電話四二四番

運動のシーズン

御忘無 旅行に遠足に 示時正確な時計を

新綠の晩春に 蓄音器とレコード 之有て一家益々團欒

平町四丁目 會田時計店 電話三六三

反對同盟會主催で 大瀧經過報告會
明日の批判演説會は 平電氣側の傀儡

大瀧發電所問題の善後對策に就き平町側に屬する發電所設置反對同盟會では二日午後七時より平銀行樓上に協議會を開き種々協議の結果「飽くまで初期の目的を貫徹する爲め最善の努力を盡す」事を決議し更に明後五日午後一時より平劇場に町民大會を開き反對同盟會より敗訴の經過報告をなし演説會に移り 大森勇、川崎文治 井上茂作、千葉彦治、大峯庫 佐々木龍若、酒井國三郎 三森虎雄 諸氏外愛町の士が熱烈なる演説を試み町民の賢明なる判斷に愬ひる事となつたが明四日聚樂館に開かれる批判演説會は平電氣會社側の傀儡であつて批判と見做すべき價値なく且つは之れ等のものに乘せられる憂ひもあるので平町側の反對同盟會よりは一人も出席せぬ事を申合せて散會したが五日平劇場の演説會は盛會を極むるであらうと

平區裁判管内 犯罪數增加
相互警戒肝要

平區裁判所管内の犯罪事件は年に增加の一方で誠に寒心に堪えぬ事で大正十五年には前年に比し三百餘件を增し本年も昨今迄の取扱ひ件數から見ると昨年を凌駕せんとする傾向であるが之は單り惡事を働こうとするものが殖へるばかりの結果でなく生存競爭の烈しい割合に一般の注意が缺けてゐる爲に因る處も多く相互何處に就ても嚴重なる警戒を拂ふ樣にして貰ひたいと某判事は語つてゐた

地方からそろ〳〵 春繭が出廻る
最盛は十七日頃か 生繭約十萬貫位

本郡地方に於ける昨今の蠶况は四齡五、六日目であるが概して全般に成積良く上族は九、十日頃から赤井、上下小川、平窪方面を皮切りに始まるものと觀られてゐるが郡養蠶同業組合の成田技手は語る「春繭出廻は走りものが十二、三日頃から出始めて十七日頃からが最盛時であらう掃立は前年の框付一萬六千七百六十四枚に比して今年は一萬五千枚見當の約一割減であるが前年春蠶には逆算が多かつた結果收獲は九萬二千六百三十五貫で今年も此の數字位いの收獲は見られるであらう」と語つて居たが春蠶の出廻期が付くに連れ郡下各町村は異狀な活況を呈して來た

十八十色（十）
肉も食ひば女も買ふ 現代的なお坊さん
牛臭坊を遙に超越した 四倉の小松お僧

奈良、平安の昔から坊主を云ふ奴は御佛づらに珠數を爪ぐり物言はぬ墓の數々を友とし、口に佛陀を稱へてさいゐれば、摘下より祖先の佛壇に上つたものは委く自分のもの、自分のものは自分のものと云ふ至つて割のよい商賣とされ昔から所謂「坊主丸儲け」のたといさへ生むに至つたのである

然し大正から昭和文化の世知辛らい今日では何處も同じ秋の夕暮れで、生活難は遂ひにぞ衣の袖を拂つて或は蒟蒻玉のブローカでボロイ儲けをしたり、細張り違ひの稻荷樣の頭をパネようと惡い了簡を起し理窟を裁判所まで持ち出す樣な我利〳〵一點の坊主が飛び出し、あたらた釋迦さまの本家本元が煩惱具足の凡夫を向ふにまわし血みどろな生存競爭の醜を露げ出してゐる當節

是れは珍らしくも坊主にして沫香臭からず、人俠味のふんだんに持つた政治家肌の坊さんに四倉町如來寺住職の小松學俊師と云ふ人がある

イヤアー君、佛の心は我々凡夫の心なんだよ、畢竟するところ我々凡夫、心底に光つてゐる力が、それ即ち佛そのものゝ心なんだ勿論眞實味の失せない限り我々の生活には總ての經驗を取り入れなければウソだよ」と云ふ調子で

元來が新しい空氣を呼吸してゐるだけに奔放思想と所謂堅ぐるしい傳統的な僧侶の生活と俗人生活とを調和した人間味の豐かな生活に生きんとしてゐる人である

南無阿彌陀佛……ナムアミダブ……と念誦する際なぞ音頭朗らかにして眞摯な態度は、いかさま月並の坊主の樣に見えるけれども師の内面生活にはチツトも沫香臭くない所に悟底味がある

即ち彼れは酒の味も知れば藝者の心理もわきまいつてゐる、紅燈綠酒、碎な味はいもタツプリと云ふ具合で社會相のすべてに亘る体驗から得た宗教觀より說く所、よく檀徒の人々を感動させ見ごと教導職の全きを期してゐる彼れは確かに現代的なた坊さんではある

手に負はぬ 平町の下水
夏季衞生注意

水の惡いのは磐城の平と歌はれた平町も文化の惠みに浴し今は遠く好間から全國にも冠たる清水を引用して立派な上水道が出來朝夕水くみの行列で賑つた井戸は破るゝがまゝにまかせてあるがこれと共に顧みられぬは下水路でその不潔さは行列騷ぎで水くみした當時より自由に存分に水が使へるようになつた今日の方が一層はげしく裏店小店は申すに及ばず表通りの家でも處によつては家と家の間に設けられた下水溜に鼻もちならぬ非衞生極まる汚水がたまり街路にあふれ出でる處も少からず汚物やゴミは至る處の溝に醜い山を築いてゐるので平署では夏季に向つて昨今頭をいためてゐるが本年は町當局と協力し一層衞生思想の普及に努め積年の弊風を一掃することゝなつた

郡養蠶同業で 桑の害虫驅除督勵
千葉式曲取法を採用し 近く講習會開催

石城郡養蠶同業組合では桑園の改良に就き多年研究を續けて居たが今春桑の發育は全く良好で例年痛まされてゐた桑葉の病蟲害も殆んどない狀態で

近年に珍 らしい桑の過剩を見る程の結果を招いたが今後も一層の研究を縮ける譯で目下桑の苗木は千葉式曲取法が最適であるため管下各町村に此れが獎勵すると共に桑葉摘取後に於ける新芽の病蟲害豫防も必須欠く事が出來ない重要て此れ等獎勵中である而し

桑葉摘取 後に於ける病蟲害豫防には牛石灰六百匁硫黃華一貫二百匁を水一斗にして五十分乃至一時間之を養沸するので桑の二大害蟲たる桑介害蟲、及ヒメゾを驅除するには最高、能率を有するものであると向是れが調合、散布には技術の講習が幾分必要であるため小野新町より滴草技手が出張次の日割で講習す筈である

廿一日草野、廿二日箕輪 廿三日川部 以上

觀世流の 謠曲研究會
明日藤田校で

平町謠曲同好者の觀世流第三回研究會は明四日午後四時より藤田裁縫女學校内に於て開く事となつたが當日の番組は

賀茂シテ古市義光ワキ鈴木德松ツレ會川俊雄（敦盛）シテ鈴木四郎太ワキ新妻春雄（羽衣）シテ麻生川顯ワキ鹽坂磐二（安達原）シテ大平郡司ワキ須賀廣治ツレ石川友次郎、（岩船）未定（蟬丸）シテ坂本隆殿ワキ三森虎雄

右終つて郡司次郎氏の仕舞ひがある筈である

海軍兵點呼
來月廿日執行

本郡内海軍兵の今年度簡閲點呼は來る七月廿二日午前七時から舊石城郡會議室に於いて執行される事に決定した

興味の中心に立つ 三縣聯合庭球
愈々明後五日に迫り 榮冠は何人の手に

平庭球倶樂部主催茨城、宮城福島三縣聯合第六回庭球大會は來る五日午前八時より平町商業、九園兩コートに於いて擧行される事既報の如くであるが〆切り當日までに參加申込組數實に百組を超い當日の盛觀想像するに難くないが參加百組を超過する大會は地方

稀有の事 で然も出場ケームは各縣に於ける第一流選手を網羅してゐる、即ち茨城縣下を風靡し同大會前年の覇者たる日立會金子出羽組、土浦クラブの德富小野、宮城縣下の雄東北鐵一流チームたる東北學院神野佐藤、仙鐵の山内後藤君始めとし本縣からは福島下金クラブの木幡、高木、神俣、坂谷松永、郡山の伊藤小野、磐炭松本武者、志賀國府田、小野田出村、猪狩平クラブ 大内大坪、根本篠塚等の既に定評ある名選手の活躍は今から期待されるが更らにスイ星の如き新進が現れ此等有數の一流組を一躍して榮冠を得るに至るか興味は深く各方面の人氣の中心となつてゐるか下馬評を綜合すれば前年優勝者日立會の金子出羽は今年の當りも物凄く廿九日の東北大會にも優勝した程で

優勝候補 として定評ある東北學院、仙臺高工共に強く日立會との對戰は見物であらう、松本、志賀の超勢級を有する磐炭は今年愈に武者を加へての新陣容は確實に優勝圈内に入るものと觀られ仙鐵山内後藤の老功平クラブ大内大坪、根本篠塚は各れも鰭く猛の潜勢力を有し意氣健昂たるものあるから此等の奮鬪は火華を發する肉彈戰を演んだるであらうと觀られてゐる

十圓でラジオ
仙臺放送局が出來れば 一般家庭の福音

平郵便局管内に有するラジオ器の數は僅に六十五軒と言ふ貧弱さであるが此れは目下のところ放送を聽取するには二百圓以上の高級品しないと滿足に聽き取り出來得ない狀態、隨つて中流以下の家庭には何等の感興もないため仙臺遞信局では仙臺放送局の新設を計劃し來る七日中に着工の運となつてゐるが此の計劃は十キロワツトの放送で安價低廉な器械に依つても當地方で充分聽取り得るもので東京放送局から有線で仙臺放送局に送り仙臺から放送するので東京の放送と何等變る處がなく器械の如きも礦石式ならば一臺十圓も出せば高級品が購入出來るし自分が組立てるなら五圓以下で充分だとの事であるから此れが實現の曉は現在まで上流階級の專有物と觀られてゐるラジオが驚く程普及されるものと觀られてゐる

無錢男逮捕
平署で取調中

自稱北海道札幌市南七條西一丁目生れ當時住所不定無職植田松利（三〇）は昨卅一日午後七時頃平町字研町平民食堂谷津モト方で無錢飲食をきめ込んで逃走したのが密行中の川上刑事に逮捕されて餘罪ある見込で目下嚴重取調中

事件の頻發に鑑み 炭礦へ警官增員
磐城、入山は既に申請 當局も其の方針

平署管内には炭礦請願巡査派出所は藤原、小野田、入山、白水、宮竹の內、綴、好間、小田、福島の十ケ所で内郷村綴巡査部長派出所が直接監督をなし炭礦に於ける警戒

其の他 の任に當つてゐるが、最近の如く勞働爭議が各所毎に隨時勃發しきた爭議が起きなくとも組合が生れてからは種々な機密等に關する問題が多くなつて來たので炭礦に於ける勞働者の調査に就て選擧も近づいて來た昨今可なり頭を惱ましてゐるが、炭礦會社でも事件が殖えて來たので平署に增員を希望してゐる向きもあり現に入山磐城兩炭礦では請願所增設方を願ひ出て居る程である炭礦には傷害事件

賭博等 司法關係のから落盤、その他天災に依る檢視事件も多く警察官も炭礦の請願は喜ばない程であると

昨年に劣らぬ 春繭の出廻
けふ繭業協議

石城郡繭實業者は今三日午前九時から舊石城郡衙に於いて協議會を開催したが春繭出廻は前年と大差ない

小學教員の爲め 手藝講習會
藤田女學校で

平町藤田裁縫女學校では從來手藝講習會を開き一般婦人の手藝教育普及に貢獻し多大の好評を博して來たが今回第六回特設手藝講習會を開く事となつた、同講習會は主として小學校職員の爲め開かれ講習細目は手工科教授細目中手藝に關する細目を全部網羅其の他希望により種類を增す事も出來る便宜であるが開期は六月十七日より五日間藤田女學校内に於て午前八時より午後三時まで講習料一圓五十錢希望者は六月十五日までに同校宛申し込まれたしと

新田町涎の税
一萬二千三百餘圓

平町大正十五年度の遊興税は一萬二千三百二十四圓二十三錢で此附加税七千三百九十四圓十六錢の徴收に就ては昨年來から花柳界の景氣が思はしくなかつた處へ諒闇となつた爲め六十三軒の藝妓屋三十四軒の三業組合六軒の遊廓等何れも一層深刻なる不景氣に脅かされ納税負擔に堪え得られぬが如き營業者を出したる有樣なりし爲到底完全なる納税は行はれざるべしと見られてゐたが納税者側の管理者なる組合長及幹事等が其納税者を督勵し少からぬ努力盡して來た爲漸し此程に至り全部の完納を見るに至つたが之れを納税者側から見れば平坪一戸當り七十四圓弱となる譯であるから昨年來からの樣な不景氣の年納など容易なものではないと語つてゐた

壽司信の試み 平町

二丁目谷口橫町「壽司信」では今度江戸前の「そば壽司」「ソボロ伊達卷」を平町に初めての仕出しを試みたが夏季の好物として非常の歡迎である

壯丁徵集免除者
甲乙種でも丈不足で 平町免除者氏名

本郡内に於ける本年度徵兵檢査の結果丙種以下及び甲乙種合格者の中丈不足理由に依つて徵集を免除されたものは三聯隊區司令部より各町村に通達あつたが平町壯丁中の免除されたもの左記六十八名で前年度より二十名の增加である

西牧喜八、市川今朝治、遠藤軍次、天下井政、平田賢、秋山重夫、佐藤源藏、丹野勝美、遠藤武、藤原新一郎、小柳利平、花澤輝一、古田部繁藏、鈴木四郎、薄葉順二、田中政勝、磐城進午、八木善吉、中川延、田村政願、永堀喜次之助、清原一、石川巴、高野芳太郎、佐藤武政、高根澤朗、草野麗藏、鈴木專藏 須藤吾一、高萩三郎、新妻秀義、酒井司良、柳下清 磯貝一男、丸山昇平、大沼梅吉、入江長三郎、猪狩隆雄、加藤保、高木益藏、鈴木勇作、石川精一郎、橋本剛二、椎名清司、東城祐馬、薄信重、片寄清 大塚政市、岡部久太郎、田島久、荒川與一、平沼直、小原伊六、小菅一郎、山部誠、佐藤粂一、白土喜重、宮田猛馬、深谷末吉、綠川粂太郎、丹野幸之助、酒井正夫、赤津周藏、關根政吉、佐藤一郎、鈴木要三郎、川上政治、石川保（以上）

平町南町
上田外科醫院
電話一二九番

平町田町通り
磐城病院
電話一一四番

無罪廣告

私は江尻藤太郎氏の告訴に因り名譽毀損刑事被告人となりたるも裁判所の公明なる御審理と辯護士小野澤彌三郎氏の熱誠なる辯論に因り本月十六日無罪の判決言渡を受け被疑暗雲は全く去りて判決は確定し青天白日の身と相成候間本件に付御配慮を蒙りたる各位に不取敢御禮旁々謹告仕候 敬具

昭和二年六月一日
石城郡江名町字南町
中西源吉

毎週 土曜日デー
（午後三時より午後十時まで）
一品 十錢 メンチカツ カレーライス コーヒーケーキ付
◎出前は御遠慮申します
カフヱータヒラ
平町一丁目（電話六二〇番）

營業種目
内地材 材木各種、羽柄材各種 建築諸材請負 礦山用坑木其他諸材請負
外材部 米松、米杉、大角製材調達 請負 其他
佐藤材木店
常磐線平町 新川町
電話 三三五番

登録商標
釀造元
福島縣平町
山崎合名會社
電話（營業部一〇番 釀造工場二七番）
振替東京一九七五五番
東京支店
上野車坂町四三
電話下谷五七二二番
振替東京六八三二二番

内科、小兒科
花柳病科
入院應需
藤沼醫院
平町紺屋町
電話平園五〇七番